

「今日は音を楽しんで」 地元の益北組仏青が「復興の集い」



熊本地震の震源に近

く、大きな被害を受けた
益北組（24カ寺）の仏教
青年会が4月8日、熊本
県益城町の交流情報セン
ターで「熊本地震復興の
集い」を開き、被災した
門信徒など80人が参加し

た（写真）。

開会式で徳尾真龍代表
は地震で亡くなった方を
追悼し、「これまで解体
工事の音ばかりだった。
歌や踊りなど音を楽しむ
ことも大切だと思う。今
日は楽しんでください。

そしてお念仏を中心に復興の歩みをしていきましよう」と話した。

法要は組内の若手僧侶らが営み、導師を務めた光輪寺の山田敬史住職が「避難生活を送る人々を始め、一日も早い被災地の復興を願います」と表白を述べて、全員で正信偈を唱えた。

法要後は、クラリネット奏者が童謡や民謡を演奏し、小学5年の山田阿衣さんと永野真唯さんが日本舞踊を披露した。会場からは「かわいいね」の声が上がり、にこやかな雰囲気となった。

益城町・光宗寺門徒の永村由紀子さん（70）は「前震の時には倒れた家具などに挟まれたが何とか抜け出すことができた。でも2回も地震が起きるなんて。頑丈な造りだったのに全壊してしまった」と当時を語る。みなし仮設住宅で避難生活を送った後、昨年8月に自宅を再建した。「いろんな人の支えがあったからここまでこれた」と話した。

同青年会と若手僧侶らは現在も毎月、仮設住宅を中心に炊き出しなどを行っている。つながりを大切にし、復興を支える活動を続けている。